

気温が低く日照時間が少ない日が続いた長い長い梅雨でした。農作物への影響が懸念されていましたが、梅雨明けからの猛暑に添えてぐんぐん成長して欲しいと願うばかりです。今年も夏がやって来ました。

地域で役割を持つことの意義

7月初旬、娘が通う保育園の夏祭りが開催されました。園児の父親による有志の「おやじの会」に籍を置く私は、今年度の会長を仰せつかりました。そして、かき氷や大判焼きを百円で販売する「おやじの屋台」の実行責任者でもあります。お祭り前の事前打ち合わせに始まり、当日も朝からの買い出しに仕込み、出店準備など大忙し。当日は雨がばらつく生憎の空模様でした。例年であ

れば30度を超える猛暑の園庭で飛ぶように売れるかき氷ですが、25度と過去最低気温の室内開催となりました。おやじの屋台は背中半分濡れる形で屋外と屋内の間にあるテラスに追いやられる悪立地。始まってみれば雨が降ってないからと急遽園庭で神輿や盆踊りを行うことになり、販売開始時間が後ろにずれ込むなど、例年になく不安だらけの開催条件。過去最低売上を叩き

出してしまうかと心配しましたが、終わってみれば上々の結果となりました。仕事でもないことに熱心になることを馬鹿らしいと思うおやじさんがほとんどかもしれませんが、仕事や家庭以外に熱くなれる何かを持つということは、自主性や指導性、協調性を培う機会を得ることであり人間形成を深め、人間関係を広め、人生を潤いのあるものにしてくれるものであると実感しています。(太)

Webサイトをリニューアルしました

当社ではこれまで年に2回ほどWebサイトをリニューアルして参りましたが、諸事情により昨年からほとんど手が付けられずにおりました。梅雨明けも間近というところに来て遅れに遅れたリニューアルによりやく着手しているところです。今回のリニューアルの目玉は事業内容とサービス内容の一新です。経営支援事業と侍・忍者道場運営事業に分離していた事業内容を「武士道を重んじた経営支援事業」として一体化し、サービスメニューで細分化することにしました。これにより会社が何をやっていてどんなところに強みや特徴があり、何のサービスに問い合わせれば良いのかわかりやすくする目的があります。事業内容に武士道を全面的に採用することにした狙いは、そこに経営者、リーダーとしてあるべき姿や会社として遵守すべき経営倫理が含まれており、それを武士道を実践し伝承する当社こそが取り扱うべきだと思いついたからです。今後、武士道や論語に関する文献を読み解きながら経営者としての立ち居振る舞いや経営を考え実践を通じて身につける「経営者道場」を開講予定です。(太)

ようこそ太仁亭へ!

台所に立つ時は、いつもラジオを聞いています。今どきは、インターネットでラジオを聞くことが出来て、しかも聞き逃した番組を聞けるサービスもあって、とても便利になりました。そのラジオで聞いたとても美味しい「とうもろこしご飯」をご紹介します。

とうもろこしの優れた栄養価については、昨年もポップコーンを紹介した際に掲載しましたが、加えてひげ根はカリウム等が豊富で南蛮毛という生薬でもあり、また、芯に残された実の

付け根にはビタミンB群が豊富な上に、芯そのものには甘みがたっぷり含まれるそうです。と言うわけで、このとうもろこしご飯にはひげ根も芯も全て丸ごと使います。(仁)

☆とうもろこしご飯☆

材料: 米3合、とうもろこし1本(芯から実を外し、ひげ根は短く切る)、塩小1.5、酒大1

作り方: 研いだ米にとうもろこしの実とひげ根、塩及び酒を加え、その上に半分に切った芯を乗せて通常の水の量で炊きます。

日本刀から生まれた言葉達-4「指南役」

今回は、日本刀というよりは武芸に因んだ「指南役」という言葉の紹介です。指南役とはももとは指南番と言い、将軍様や大名に仕えて武芸や技芸の教授を行う人のことです。

これまで経営コンサルタントとは「経営に関する助言・指導を行う相談役」という説明をしていたのですが、それなりの規模の会社には「相談役」という役

員がいますし、実際の現場では「やって見せる」ことや「一緒にやる」ということが大切で、ずっとしっくり来ていませんでした。ここ最近、居合や剣術の指導を通じて武士道と経営の指導を行うようになってから「指南役」という言葉が妙にしっくり来るように感じていたので、最近では経営コンサルタントのことを「経営の指南役」ですと答えるようにしています。(太)

今月のお豆ちゃん

保育園の夏祭りで、生まれて初めて浴衣を着たお豆ちゃん。昨年までは甚平を着用していましたが、華やかな帯を締める浴衣に大興奮でした。着物や浴衣を着て帯を締めると多少動きがおしとやかになるものですが、子供はあまりお構いなしなんです。走る、よじ登る、ころぶ、転がる、(食べ物)こぼす...全ていつも通り。元気いっばいに夏祭りを満喫しました。(仁)



はんげしょう 半夏生

美しく咲く半夏生に出会いました。七十二候の一つに「半夏生(はんげしょうず)」がありますが、この「半夏生」とはサトイモ科のカラスビシャクという薬草のことだそうです。半夏生はこの七十二候の頃に咲くのでこの名がついたとか、葉が半分白くなった様子から「半化粧」と呼ばれたのが半夏生になったとも言われているそうです(「暮らし歳時記」より)。見出しの写真は7月2日、正に「半夏生」の始まりの頃の撮影です。(仁)

編集者: 後藤紅仁子

kuniko-goto@ccore.co.jp

発行日: 2019.7.16 小暑(しょうしょ)

蓮始開(はすはじめてひらく)

発行所: 株式会社コンセプト・コア

☎192-0373

八王子市上柚木 2-63-10

TEL/FAX 042-697-7473

https://ccore.co.jp/

過去号: ウェブサイト1からご覧頂けます。